

生き活きと輝き、誇れるまちの今をあなたに届ける

広報湯前

Public
Relations

Since1962.

<https://www.town.yunomae.lg.jp/>
[まちの情報誌ゆのまえ]

11

TheMonthly
Nov_2018
Vol.449

特集1「下村婦人会」

幸せのDNA

特集2「地域おこし協力隊リポート」

人集う、月明かりの夜

あなたに届くラブレター

DNA 幸せの

おいしい新米の季節。日本食を代表する漬物は古くから白米のお供として日本人に愛されてきました。漬物を中心に農産物の加工をてがめる下村婦人会市房漬加工組合(池田タメ子代表14人)。戦後の貧しい時期に下村地区で立ち上がった女性たちの夢は、今も途絶えることなく受け継がれています。下村婦人会の生みの親、故山北幸さんの誕生月の11月。今回は、下村婦人会についていきたいと思います。



1 白いかっぱぼう着がユニホーム、野菜を漬け込む会員 2 市房山に見守られ、地元で採れた野菜をリヤカーで運ぶ 3 子どものために造った下村遊園地(広場)と会員たち

戦後の混乱で、貧しい暮らしが続く昭和25年。山北幸さんを中心に地区の女性たちが手を組み、下村婦人会が発足しました。経済的に苦しい中、女性たちは毎月2回、地区の公民分館に集合。100円、200円を持ち寄り、くじに当たった人が受け取る「頼母子講」に始まり、シユロの葉で作ったハエ叩きや米、卵などを売って、生活の足しにしていました。

用水路が整備されてからは、たくさん採れるようになった野菜を加工し始めました。初めは「なすからし漬け」と「紅シヨウガ」。その後、毎日食べてもらえるようにと野菜のみそ漬けを作り始め、昭和32年に下村婦人会野菜共同加工部が発足しました。

腰を据えてみそ漬けを作るためには共同炊事場が必要でした。工事費用の3分の2は補助金がありましたが、残りの24万円(今の400万円ほど)はすべて自己負担。漬物作りや販売、簡易保険の集金代行まで会員が汗を流してお



農事組合法人 初代代表 下村婦人会

故山北幸さん(享年99歳)

Profile
大正2年生まれ。37歳の時に地域の貧しい暮らしを立て直そうと下村婦人会を発足。昭和30年にはすでに「食の安全安心」や「地産地消」を信念として地元の農産物を漬物にして販売。平成20年に94歳で代表理事を引退するまで第一線で地域の食をけん引。平成19年町民栄誉賞を受賞。平成25年2月、99年の生涯に幕を閉じた。

生活の確立に汗

少しでも各家庭に現金をもたそうと、漬け込む野菜は各家庭で作ったものを買い上げました。会員たちは新設された婦人学級で本格的なみそ作りなど、農産加工品について勉強。昭和33年、本町第1回産業祭に3品を出品し、1〜3等賞を独占しました。

金を稼ぎました。苦勞の末、昭和36年に共同炊事場が完成。3年後にみそ漬けを商標登録し「市房漬」としました。このころには県内外の新聞や雑誌の取材も増え、収入も安定。みんなにパート賃金を支払えるまでになりました。

文が殺到。下村婦人会の名は一気に広がりました。その後、熊本市の鶴屋百貨店でも販売を開始。平成元年に「日本一づくり運動特別賞」、平成8年に国土庁(現国土交通省)の「地域づくり表彰」で「山北幸と下村婦人会」が「国土庁長官賞」を受賞するなど、数々の栄光をつかみました。

商品テストなど、正直に良し悪しを書くことで知られていた全国誌「暮らしの手帖」。その初代編集長、花森安治さんが昭和46年に「このすばらしき井戸端会議」として下村婦人会を15ページで特集しました。掲載の影響で全国から注

も、同23年食品産業センターが認定している地域ブランド表示基準制度「本場の本物」に「きりしぐれ」が認定。同27年には「市房漬」が認定。同27年が熊本うまかモンBOXに選ばれるなど内外にその価値が認められています。



みそを樽に叩きつけて入れ、空気を抜く。夏は2カ月、冬は3カ月寝かせて完成

塩、ミンチ状の蒸した大豆、大豆の煮汁を加え、3分間機械で混ぜる

麹を機械に入れてほぐす。機械でほぐしきれない分は手でほぐす

混ぜる大豆や塩の割合を合わせるため、計りで1コンテナ30.7~30.8kgに調整

麹を16等分に分けて、4つのコンテナに入れる

大麦を機械で発酵させ、できた麹を取り出す

「下村婦人会のみそ作り」

「手」のこだわり

手間も時間もかかる「強み」

各地に強いファン

球磨の大根、ニンジン、キュウリ、シヨウガを漬け込んだ代名詞の「市房漬」。柚子を使った伝統的な保存食の「柚子餅」、鍋料理や汁物に欠かせない「柚子胡椒」。現在、下村婦人会は約25種類の商品を手掛けています。

6月にラッキョウ、9月に青柚子など季節ごとに採れた地元の農産物を仕入れ、加工して販売。婦人会の福屋眞貴子さん(66=下村)は「ラッキョウは昨年すぐに売り切れてしまったため、こしは倍作りましたが、すでに品薄になっています。都会でも人気です。商品の販売を待っている人がいるのはうれしいことです」と根強いファンの存在に感謝します。

手作りのこだわり

10月15日の加工場。調理台にまな板を広げ、包丁を使って、黙々と作業するのは5人の会員。青梅をシンの葉で巻き、砂糖漬けにした「梅まくら」を作っていました。種を取り除いた青梅にはきれいにシソが巻かれています。別の作業場では、梅干しの袋詰めも行われていました。袋に入れて、重さを計り、封をするまで、すべてが手作業。婦人会の商品は材料を漬け込



ら」を作っていました。種を取り除いた青梅にはきれいにシソが巻かれています。別の作業場では、梅干しの袋詰めも行われていました。袋に入れて、重さを計り、封をするまで、すべてが手作業。婦人会の商品は材料を漬け込

「安全であること」「ごまかしのないこと」「味のよさ」「価格が妥当なこと」。山北さんが掲げた4つの理念は今もなお、下村婦人会の活動の根本を支えるものとして受け継がれ、商品作りに生かされています。



福屋 眞貴子さん (66=下村)

むものも多く、販売までに3カ月ほど時間がかかることもあります。福屋さんは「手作りは手間も時間もかかります。原価もかかりますが、食べる人の気持ちを考えて10円でも値上げはためらいますよね。やはり、私たちの強みは発足当時から続けてきた『手作り』。食べてくれる人へ思い、一つ一つに愛情を込め、素材が伝わるような商品を作り続けたいと思っています」と手作りへのこだわりを話します。

「優しさ」のための知恵

市房漬や柚子味噌など、多くの商品に使われる「みそ」。野菜に付加価値をつけるためにみそ漬けを作った婦人会にとつての原点です。在庫がなくなる前に造られますが、多くは春と秋に造られています。「みそは生き物。温度や湿度の影響を受けますので、作業や確認は気が抜けません」と福屋さん。当番制で室温、湿度を一日も欠かさず確認して麹が咲くのを見守ります。小麦アレルギーの人が食べられるように原料には大麦を



1一つ一つが手作業。作り手の温もりが込める2梅まくらから加工。黙々と作業が進む3砂糖に漬けられた青梅とシソ。商品によって漬け込む時間も工夫4旧工場のかめで造られるしょう油。完成までに半年もかかる



使い、現代の健康志向に合わせる減塩にもこだわります。みそは東京の大きなホテルでも使われるほど味や品質が認められています。みそ漬けは野菜によって発酵したみそと発酵していないみそを使い分けています。素材によっても漬け込む時間を変えて食感や味を最高の状態で提供。添加物を加えることはしたくないと、みそには地元の米焼酎を防腐剤代わりに使っています。柚子や大根なども水で洗い、焼酎できれいに拭き上げることで無添加になっています。受け継いだ知恵で体に優しい商品を作り上げています。



手間暇をかけ、無添加・地の物にこだわった、おいしく優しい商品がずらり



Interview



下村区長
山浦 義光さん(66=下村)

思いが伝わる商品
若者にこそ
届いてほしい

私は、下村婦人会の商品をお盆にお中元として送ったり、兄弟が帰省するときにお土産として持たせたりしています。

婦人会は就業の場であり、農産物を出荷できる場所でもあるため、地域にとってありがたい存在。まさに「よりどころ」です。近年叫ばれている六次産業化を女性たちが先駆けてやってきました。これだけ長い間、続いていることは地区の誇りでもあります。

地区の役員は毎年市房漬感謝祭に協力しています。感謝祭では駐車場係から振舞いまで、地区の人も集まる交流の場。打ち上げはえらい(ものすごい)盛り上がりです。夜遅くまでにぎわいます。地区のことや婦人会のことなど本音で語る場にもなっています。こういう時に商品やまちづくりの良いアイデアが生まれるのかもしれない。

今は簡単な食事が多くなっていますが、若者にこそ、この手作りで安全な食品が届いてほしいです。婦人会の商品は生産者や加工している人の思いが伝わる商品だと思います。

ん、みんないい人。やっぱりふるさとと温かい。湯前で仕事ができることが幸せです」と笑顔で話します。

月2〜4回は物産館や大型ショッピングセンターで出張販売。湯前は交通アクセスなど不便なこともたくさんあります。しかし、販売する会員の顔はいつも笑顔。その理由を池田さんは「湯前でやっていることが誇りだからです。販売先では、お客様に『湯前はいいところですよ』と自信をもって私たちの町を紹介しています」と話します。そこには、田舎だからという劣等感はありませんでした。



商品と一緒にほんの少しの気配りを箱に込める池田さん。食べる人にはその「心」も届いている

袋から開けてそのまま食べられる欧風ピクルス。包丁やまな板を使わなくて済む工夫は時代に合わせた工夫の一つ



「どうせ田舎」ではなく「田舎だからこそ」。人の温かさを感じつつ湯前に誇りを持って仕事を続ける婦人会員たち(左:児谷典子さん、右:生産者の椎葉茂さん)

「食べてみて、よかったら買ってください」という気持ちです」と、町に誇りを持ち、商品に自信を持っているからこそ、対面販売では絶対に押しつけません。池田さんは「商品を買ってくれた人が、いつか下村婦人会に来てくれて、一緒にお茶を飲めたらいいですね。売り場を町の人のいいの場にしたいとも思っています」と自身の夢を語ります。

「心」が届く商品を

「柚子マーマレードを北海道に送ったときにパンフレットを付けたら、ほかの商品も注文が来ました。おまけで梅干しをつけたときは、梅干しの注文がたくさん来ました」と注文販売では気配りがきつかけとなり、各地に商品が広がっています。

池田さんは「半世紀以上前の理念が今も通用します。しっかり守り続け、おいしいことはもちろん、安心安全なものを作り続けたいです。食べてくれた人だけでなく、周りにいる大切な人にも食べてほしいと思うもらえるような商品を作り続けたいです」と常に挑戦する気持ちを持っています。

声を拾い時代に合わせる

現在、洋食化で食の嗜好が変わり、減塩も叫ばれるなど漬物離れが深刻になっています。代表の池田タメ子さんは「常に時代に合わせた商品を提供しなければなりません。一方で慣れ親しんだ味を変えてほしくないという声もあります。二つを合わせるために、食べてくれる人の声を拾い、会員みんなで話し合っています」と商品作りへの思いを語ります。



下村婦人会 3代目代表
池田 タメ子さん(76=下村)

Profile
夫の定年退職をきっかけに地元湯前に帰郷。山北幸さんから誘いを受けて平成10年に下村婦人会へ。平成27年に第3代目となる代表に就任した。

地主の家で大勢の男衆、女衆がいる大家族に生まれ、た山北さんは幼少時代に祖父から「あるものを生かす」という知恵と心を学びました。そのDNAを受け継ぎ、地元で挑戦し続ける下村婦人会。代表の池田タメ子さんに話を聞きました。

ここでやるのが自慢

ふるさと

故郷のプライド



新しく建てられた看板は下村区の金山充さんが婦人会のために描き上げたもの

「商品がだれに食べてもらいたいか考える」。その思いを形にしたのが市房漬の切れ端を刻み、シソの実などを加えた「きりしぐれ」。歯に抵抗があるものが食べにくい高齢者や子どもも食べやすい商品として発売当初から人気を博しています。

「今は包丁で切ることや、中身を袋から出すこともおつくうな時代。ひと手間かけてあげるだけで売れ方が全然違います」と池田さん。丸々一本包装していた欧風ピクルスのキュウリを食べやすいようダイス状にカット。包丁やまな板を使わなくてもすぐに食べられるようにしています。食べる人に寄り添い、思いやる心も山北さんから受け継がれています。

ここにある幸せと誇り

池田さんは20年前、夫の定年退職に併せて地元湯前に帰郷。山北さんの誘いを受けて婦人会にやってきました。「湯前は人情味があふれ、落ち着き、帰りたいと思える町。野菜を持ってきてくれる人、感謝祭を手伝ってくれる近所さ

まちおこしのレシピ

住民と生かす

下

村婦人会の売り場が多くの人でにぎわうのが山北さんの誕生日の11月。5年前から「市房漬の日・感謝祭」を開催しています。特産品の販売や、おにぎり、漬物、手打ちそばの振舞い、こんにやく作りなどイベントが満載。中でも婦人会の商品を使った「アイデアレシピコンテスト」に注目が集まります。「さて、漬物で何ができる？」をテーマに、昨年は「市房みそ」「からし漬」「高菜炒め煮」を一つ以上使ったレシピを募集。町内外から応募があり、漬物はフレンチに、ドレッシングに、デザートに大変身。毎年驚きの絶品ゲ

「いい素材」を生かす方法を考える

こりゃからかホットなサンド



森田 真音香さん (32=中里2)

使う食材が決められているので、一つ一つ試食してみて、どういう風に調理したらおいしくできるかを考えています。卵とマヨネーズ、粗みじん切りにした玉ねぎを使ったタルタルソースを作り、からし漬けと合わせました。からしのインパクトがマヨネーズに負けないよう何度も試作して配合を工夫しました。もともとの商品がおいしいからこそ、いろんなアイデアが広がるのだと思います。



いい素材を生かす知恵が つまったホットサンド

「おいしかった」がうれしい

柚子みそあられ・ 柚マーマレードもちあめ



澁谷 彩季さん (48=湯前中1年=下城)

小学生のころから、祖母と一緒に料理をしていました。前は下準備を祖母が、仕上げを私が担当しました。柚子やみその味や香りを生かし、一つ一つ包むなど、見た目も良くしました。食べてくれた大人や小さな子たちがおいしいと言ってくれてうれしかったです。(祖母：雅代さん) 孫と料理ができるのは幸せです。いつもおいしい料理を作ってくれるので、次は一人でも挑戦してほしいですね。



「おいしかった」の喜びを教えてくれたもちあめとあられ

おもしろいレシピで舌をうならせたい

Basin of The Morning Glow ~盆地の朝焼け~



林 泰広さん (48=下城)

毎回、自社で造る米焼酎を題材に米焼酎に合うレシピを考えています。カクテルはまず、球磨郡の絵柄を考えました。柚子うめ子は色合いが良く、切り方を工夫すると市房山のように。極早みかんの香りや色合いを使って、球磨の朝焼けのイメージに仕上げました。食前酒やデザート感覚で飲めます。だれも作ったことがないようなおもしろい料理を作って審査員の舌をうならせたいです。



柚子うめ子の色合いを生かした おしゃれな焼酎カクテル

ルメが生まれています。「いろんなアイデアが出てくるのでわくわくします。コンテストは今まで食べたことのない商品を知ってもらう良い機会。皆さんがいろんな発見をしていただけることで漬物の楽しみ方も広がります」と代表の池田さん。歴代のレシピをまとめた本を作成し、ホームページにも掲載。売り場には気軽に手に取ってもらえるように小さな冊子も置いてあります。住民が考えた漬物のレシピは、内外に商品の魅力を発信する「まちおこし」につながっています。

「食べ物を扱うということは、命を扱うということ。それは仕事であっても、家庭の台所であっても同じ。私たちは台所を預かる主婦の集まりですから、安心・安全な食べ物をと願うのは当たり前前で、それを仕事で考えたなら、こういうことですね。私たちの加工場は家庭の台所の延長なんです。食べてもらう人のことを考え、喜んでいただくための努力をします。喜んでいただけただけのうれしさといったら、ね。それでここまでやってきたんですよ。」

『山北幸 手の記憶』より

時代が変わっても、
変わらないもの。
それは、湯前を愛し、
相手の「幸せを思うこと」。



便利な世の中になった反面、食べ物を粗末に扱うことも多くなりました。貧しさから暮らしを立て直そうと、地域の食材を余すことなく生かし、安心して食べられることを志した下村婦人会。半世紀続く思いこそ、今

の私たちの生活に必要なものではないでしょうか。食べる人やその家族を思い、湯前の恵みに心を込めて。本物の味は、あなたや大切な人を幸せにするはずですよ。

特集 幸せのDNA(完)

第5回市房漬の日・感謝祭

日時 11月23日(金・祝) 午前10時~午後2時30分
場所 下村婦人会市房漬加工組合敷地内(下村区)
内容 講演会
町内物産販売、わらし作り体験
レシピコンテスト試食、投票、表彰式
こんにやく作りの体験
おにぎり、漬物、手打ちそばなどの振る舞い
※今回は来場した人が審査。投票者にはプレゼントあり

アイデアレシピコンテスト

テーマ さて、漬物で何ができる？
条件 「きりしぐれ」「高菜炒め煮」「柚子みそ」を一つ以上使用
※一人二袋まで提供。申込用紙は下村婦人会まで
※応募の品は当日午前9時までに会場へ搬入
表彰 下村婦人会賞(漬物詰め合わせ3千円相当)など12点。全員に参加賞あり
応募資格 当日持ち込みが可能な人
※プロ・アマ、個人・団体を問わず
問い合わせ 下村婦人会市房漬加工組合
〒868-0616 湯前町3116-3
TEL.0966-43-3827

特産品を使って町民がレシピを考案する、まさに漬物が生んだ「まちおこしのレシピ」



さようなら親子水車

26年の活躍に幕



解体工事が始まる親子水車。老朽化で3年前に動きを止めていた

本町のシンボルとして知られていたグリーンパレスの親子水車の解体工事が11月16日から始まり、平成4年の完成以来26年の活躍に幕を閉じます。解体は老朽化で修理に大きな費用がかかり続けていることから。水車は故障や破損で使用できない状態が続き、平成27年にはその動きを止めていました。今回解体するのは、親水車と子水車、からくり球磨民話館。11月16日には現地で工事の安全祈願祭を執り行う予定で、工事は来年2月末まで行います。

水車は米の消費拡大の推進と観光客の増を図り、日本一の観光水車を造ろうと計画され、平成4年4月に親水車が、翌年3月には子水車が完成。親水車は直径14・1m、幅1・28m。子水車は直径5m、幅78・5cm。親水車完成当時、岡山県の水車が直径13・6mで日本一と言われていて、親水車は0・5m上回っていました。

水車は町民によって「世界一の親子水車みどりのコトクン」と名づけられ、周辺の施設と一緒に町内外の人に親しまれてきました。平成6年には民話館も完成し、水車の動力を利用して民話「弥じゃあどんの首」を上演していました。杵臼4基、ソバ引き用うす1基を備える水車小屋は残し、別の動力での使用を検討する予定です。



町の花、ツツジとともに景観に華をもたせてきた

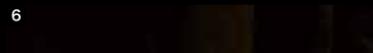
The Light of

城泉寺

日本遺産を灯す——



4階段にきれいに並べられた灯ろう5阿弥陀堂の参拝者も多数6通路もライトアップ。駐車場からお堂にたどり着く道も楽しめた7プロジェクトマップに興味津々の子どもたち8お堂へ向かう人を見送る絵灯ろう9自分たちで描いた絵が飾られるのは一生の思い出



県

内最古の木造建築物、城泉寺阿弥陀堂のライトアップが9月22日に行われ、たくさんの方が、手描きの絵灯ろうやお堂へ映像を投影する「プロジェクトマップ」を楽しんでいました。国指定重要文化財であり、相良700年のストーリーとして日本遺産に認定されている文化財の一つでもある城泉寺。町内外の人に足を運んでもらおうと地域おこし協力隊が主催し、ことしで4回目。雨で1日延期になりましたが、翌日は天気に恵まれ、絶好の観覧日になりました。境内には町内の園児や学童クラブの子どもたちの絵を使った灯ろうが400個以上並び、お堂はさまざまな映像で美しく彩られました。訪れた人は優しい光りと月明かりにいやされていました。



1絵灯ろうとプロジェクトマップで美しく輝く城泉寺2汗を流す協力隊員。400個以上の絵とろうをきれいに並べるのも一苦労3町内の子どもたちの絵と光は見る人の心をいやしてくれた



大賞は「日陰作戦」

ジュニア部門は浅田さん 第27回那須良輔風刺漫画大賞

第27回那須良輔風刺漫画大賞の審査会が9月27日、神奈川県那須良輔大賞(賞金50万円)に千葉県在住の高橋道子さん(53=千葉県)の「日陰作戦」が選ばれました。ジュニア部門の那須良輔大賞(中学生の部)には浅田元哉さん(湯前中学校2年=上里3)の「2018・米朝春夏コレクション☆」、湯前町長賞には海部夏帆さん



一般部門 那須良輔大賞 「日陰作戦」高橋 道子さん(53=千葉県)

作者談：組体操で培った技術を使って、体を張って選手の皆さまをお守りいたします所存でございます。

(6=熊本第一幼稚園)の「日本こまつた！」が選ばれました。取り組みは風刺漫画家、故那須良輔さんの出身地である本町が平成4年から開催しているもの。漫画集団に所属し、那須さんともなじみのある、漫画家の種村国夫さん、多田ヒロシさん、前川しんすけさんが審査員を務めました。一般部門に179点、ジュニア部門に267点、総数446点の応募があ

り、うち40点が入賞。ジュニア部門には地元小・中学校や遠くは岩手県から、一般部門には北海道から鹿児島県まで、全国各地から多数の応募がありました。ことは「北朝鮮問題」や「アメフトタックル」「東京オリンピック」「異常気象」「災害」などの話題をテーマにした作品が目立ちました。大賞に選ばれた「日陰作戦」は2020年に東京都で開催されるオリ



ジュニア部門 那須良輔大賞 「2018・米朝春夏コレクション☆」 浅田 元哉さん(湯前中2年=上里3)

作者談：アメリカのデザイナー(ドナルド・トランプ氏)と北朝鮮のデザイナー(キム・ジョンウン氏)二人によるコラボTシャツ販売か!?



一般部門 審査員特別賞 「猛暑のマラソン」 Mr.アルフレッドさん(53=大阪府)

作者談：猛暑のマラソンは、地上は無理!?



ジュニア部門 湯前町長賞 「日本こまつた!!」 海部 夏歩さん(6=熊本市第一幼稚園)

作者談：にほんこまつた!! にほんこまつてないかな。



記者発表では、机の上に入賞作品がずらりと並んだ

ンピックをテーマにしたもの。審査員は「真夏のオリンピックのマラソンは大丈夫か、というネタはいくつかあったが、その中で一番おもしろかった。発想の飛び方がすごい。どうやってアーチを支えているのか、2時間以上、よくこの体勢でいられるものだな、と考えると暑そうなお茶苦茶で表現もすばらしい」と評価しました。ジュニア大賞の「2018・米朝春夏コレクション☆」は「世界の平和が米朝トップ会談をきっかけに、前向きに進行してほしいという作者の心が伝わってくる。和平交渉が成功したときは、こんなTシャツが本場に売り出されるかもしれない。トランプ大統領と金正恩委員長の似顔絵も、だれの真似でもなく「見事」と評価されました。表彰式と全作品の展示は11月11日に「ゆのまえ漫画フェスタ」の会場で行われ、12月ごろからは湯前まんが美術館で作品展を開催する予定です。

No.1

走りで見せた主将の意地

男子6位、女子は7位 球磨人吉中体連駅伝大会



最高の走りチームの流れをつくった主将の福屋選手

平成30年度球磨人吉中体連駅伝大会は10月16日、あさぎり町立あさぎり中学校をスタート、

フィニッシュとする男子6区間20キ、女子5区間12キのコースで開かれ、湯前中学校男子(井上達晃監督)が6位、女子が7位でフィニッシュしました。

男子は1区(4キ)で先頭の相良中学校を追う集団から、主将の福屋選手(同校3年)瀬戸口が飛び出して、スタートダッシュに成功。2位でたすきをつなぐと、2区(3キ)、落合諒選手(同2年)中猪(が)が区間賞の走り、先頭との差を縮めました。その後、一時トップに立ったものの、徐々に後続が迫り順位は後退。激しい2位争いを繰り広げましたが、湯前中はトップと2分差となる1時間08分23秒での6位でフィニッシュ。女子は永瀨香琳選手(同2年)浜川が最後に一人を抜き返す意地を見せ、50

分46秒の7位でフィニッシュしました。福屋選手は「とにかく先頭にくらいつき、少しでも早くたすきをつなぐことを心がけていた。練習よりも体が軽く、序盤から飛ばしていくことができた。目標の県大会に行けず、とても悔しいが、全員が良い走りをしてくれた」と話していました。

◆競技結果

(男子)

⑥湯前中 1時間08分23秒

※(通過順位)(区間順位)

- 1区 福屋 渉 (2)(2)
- 2区 落合 諒 (2)(1)
- 3区 篠宮 光陽 (3)(8)
- 4区 黒木 海斗 (4)(3)
- 5区 岩野 陽太 (4)(6)
- 6区 北崎 雄一郎 (6)(9)

(女子)

⑦湯前中 50分46秒

※(通過順位)(区間順位)

- 1区 椎葉 愛華 (8)(8)
- 2区 庄籠 珠有 (9)(10)
- 3区 中田 有咲 (10)(10)
- 4区 瀨田 莉星朱(10)(9)
- 5区 永瀨 香琳 (9)(8)



1湯前の自然とおもてなしに参加者の笑顔が咲き誇る2明導寺を参加者に説明する案内人3上里の町観音では、漬物、ごはん、茶菓子など充実したおもてなし4たくさん会話を交わし、参加者も案内人も仲良しに

No.2

涼しい風と温かなおもてなし堪能

実りの秋、郷あるきツアー

ゆのまえ観光案内協会(有馬鉄郎会長)のガイドツアー「実りの秋、郷あるき」が9月22日にふれあい交流センター「湯」とびあを発着点に町内一帯で開かれ、18人が秋の魅力を感じながら6キのコースを歩きました。観光案内協会は昨年4月に設立されました。今回は、秋の魅力を多くの人に感じてほしいと本年度1回目のツアーを企画し、人吉球磨管内や遠くは鹿児島県から申し込みがありました。参加者は湯とびあで受付を済ませ、9人の観光案内人からそれぞれ説明を受けながら、上里の町観音、明導寺、上村毘沙門堂、下村婦人会市房漬加工組合を巡りました。景色だけでなく、本町の特色でもある「おもてなし」を楽しんでほしいと、受付時にアメを配り、葉っぱで作ったバツタをテーブルに飾るなどして参加者をおもてなし。道中では真っ赤に咲き誇るヒガンバナや木々が迎え、参加者は秋晴れの中、涼しい風を浴びながら町内を歩いていました。案内人は歩く参加者の間に入って笑顔で会話を交わし合いました。歩き終えた後には、サプライズ



道中は咲き誇るヒガンバナが参加者を出迎えた

で、下村婦人会の漬物や柚子ジャムをお土産としてプレゼント。参加者はうれしそうに持ち帰っていました。同協会事務局で地域おこし協力隊として活動する椎葉賢也さん(24)野中田3)は「ツアー中、終始笑顔が見られ、参加者同士やスタッフとも会話を楽しんでもらえたことがよかった。秋ならではの風景やおもてなしを堪能してもらえたのではないかと。今後、観光案内人だからこそ体験できることにこだわってツアーを企画していきたい」と話していました。本年度は計3回のツアーを予定しています。



エース区間のプレッシャーと戦いながら、食らいつく2年生の椎葉選手



全員のたすきをつなぎ、最後まであきらめず、懸命に走った6区北崎選手(右)と5区永瀨選手(左)



フォトレポート「運動会」



7

5自分の出番以外も大きな声で仲間を応援6大玉を転がし、みんなの待つ元へ8照れくさいけど楽しい、6年生の親子競技9騎馬戦も白熱



9



8



6

元気も笑顔もはつらつ

湯前小学校運動会

平成30年度湯前小学校(菅原浩子校長)の運動会は10月1日、同校グラウンドで開かれ、児童196人が赤・白の二団に分かれて元気はつらつと競技しました。赤団の団長を那須葉介さん(同校6年=下城)、白団長を村山健翔さん(同=上村)が務めました。6年生の親子競技では、互いに感謝や励ましの言葉を伝えて二人三脚、風船割り、おんぶの順でゴールを目指しました。応援合戦では、両団が6分の制限時間ぎりぎりまで演舞を披露。ことしは応援合戦を制した白団が総合優勝を果たしました。5、6年生も力強い組体操を披露しました。



4



5



2

1我が子におんぶされて満面の笑みを見せる保護者2晴天の下、グラウンドを元気に駆け抜ける選手3・7手、足、声、全身を使った全力の応援合戦4笑顔と元気がはじける1、2年生のダンス



1



3

目指せ、一等賞

慈光こども園運動会

慈光こども園(藤岡洋子園長)の運動会が10月14日に湯前小学校体育館で開かれ、園児77人が体操や遊戯を披露し、かけっこなどで競い合いました。年長児によるかけっこでは、予選を勝ち抜いた園児による決勝戦が行われ、上位入賞者は藤岡園長からメダルを受け取りました。体操競技では、年中～年長児らが体操を披露。年長児は跳び箱や逆立ち歩き、片手側転など大技を披露しました。



2



3



1

1跳び箱もお手の物2一番目指して猛ダッシュ3園長から金メダルをもらう中田剛瑠くん4きれいにそろった体操5我が子を笑顔で迎える母親6リズムに合わせてノリノリ



6



5



4

親子のきずな深める

湯前保育園運動会

湯前保育園(東理絵園長)の運動会が9月24日に同園で開かれ、84人の園児たちがかけっこや遊戯などを笑顔で競技しました。クラスごとのかけっこでは、一人ずつ元気に自己紹介をしてスタートしました。さくら組(年長児)親子は赤白に分かれて「デカパンリレー」。親子で協力し運動場の芝生を往復しました。園児たちは笛隊の演奏や幼年消防の通常点検など、練習の成果をしっかりと発揮しました。



1

1「頑張ってるね」と、園児のすぐそばで応援する保護者2一等賞、やったね。両手をつきあげて喜ぶ園児3いよいよスタート、入場行進でわくわくどきどき4練習の成果をしっかりと披露した年長児5親子のきずなを深めた年長児親子の競技



2



5



4



3

湯前クラブ、準優勝で九州大会へ
九州実年野球熊本県大会



連戦の疲れが残る中、準優勝を果たした湯前クラブ

第17回九州実年野球熊本県大会(満50歳以上)が9月22日から24日の3日間、玉名市を主会場に開催され、県内各都市から18チームが出場する中、湯前クラブ(川崎菊男監督)が準優勝しました。

トウヤクラブ(熊本市)との決勝戦では、1点を先制し、守っては先発の蓑田洋介投手(57=下村)が5回まで相手打線を1安打に抑える快投をみせたものの、アクシデントで投手交代。最終回に逆転され、優勝は逃しましたが、上位2チームに与えられる九州大会の出場権を獲得しました。

九州大会は各県代表2チームが参加し、11月24、25日に熊本市で開催されます。川崎監督は「2回目の優勝を目指していたので、悔しい準優勝となった。ほぼ全員が1週間前の県民体育祭でも決勝までの4試合を戦っていて、疲労が残る中での試合だったが、よく3日間頑張ってくれた。九州大会への出場権を獲得したので、2年前の準優勝を超える、九州チャンピオンを目指したい」と話していました。

<成績>

- 1回戦:湯前 10-1 阿蘇球友(阿蘇郡市) ※5回コールド
- 2回戦:湯前 4-3 ウィード(熊本市)
- 準決勝:湯前 3-2 あさぎりシニア(あさぎり町)
- 決勝戦:湯前 1-2 トウヤクラブ(熊本市)



ガッツポーズで入賞を喜ぶ選手たち

清川さん、別府さんがV
天神旗少年空手道大会

第39回天神旗少年空手道大会が9月9日に福岡県太宰府市の日本経済大学体育館で開かれ、本町の空手クラブ「陽心館」(藤岡孝史代表)の選手が出場。個人組手女子・小学4、5年女子で清川真帆さん(湯前小5年=植木)、同・中学2年で別府光美さん(多良木中2年=多良木町)が優勝しました。10月8日に人吉スポーツパレス第一武道場で開かれた国宝青井阿蘇神社奉納空手道鍛錬大会でも多くの選手が入賞しました。

<天神旗>

■個人組手・女子

- 小学4、5年 ①清川真帆 ③石井愛子
- 中学2年 ①別府光美

■型・女子

- 小学5、6年 ①石井愛子 ②多良木姫愛来
- 中学、高校 ②別府光美

■組手・男子

- 小学1、2年 ①石神絵翔
- 型・男子
- 小学1、2年 ①石神絵翔
- 小学3年 ②石井進太郎

<青井神社> ※個人のみ

■組手・女子

- 小学5、6年 ①石井愛子 ②多良木姫愛来
- 中学、高校 ①別府光美

1万個の積み木でひらめき伸ばす
慈光こども園積み木ワークショップ

慈光こども園(藤岡洋子園長)の積み木を使ったワークショップが9月25日にで開かれ、2歳~年長児61人が積み木遊びを楽しみながら、創造力を伸ばしました。

取り組みは「木楽舎 つみ木研究所」(山梨県)代表取締役の荻野雅之さんらが全国の保育園で行っているもの。使った積み木は台形、立方体、長方形のヒノキ製。10年ほど前に同園が、積み木を購入したつながりからワークショップを開催。ひらめきや達成感を味わってほしいと1万個の積み木が用意されました。

園児は寝そべて円になり、降り注ぐ積み木のシャワーを浴びたあと、起き上がって積み木で海の生き物を作りました。小さな魚や亀、大きなジンベイザメやダイオウイカなど、みんなで協力しながらどんどん作品を作り上げました。一度崩れてもあきらめず作り直す園児もたくさんいました。

最後には積み木に「ありがとう」と言葉をかけ、ぎゅっと抱きしめてからきれいに片付けていました。



「ありがとう」と積み木を抱きしめる



1



2

1自由に積み木を組み合わせ、楽しく発想力を伸ばす園児2部屋いっぱいに積み木を広げ、どんな作品が生まれたか発表

ルール守って事故ゼロに
秋の交通安全運動推進大会

秋の全国交通安全運動4町村合同推進大会が9月20日に農村環境改善センターで開かれ、約300人が出席。9月21日から9月30日までの、全国交通安全運動週間に併せて町内一帯でキャンペーンが行われました。

大会は多良木地区交通安全協会と管内4町村が主催し、毎年春と秋の2回開催。交通安全の功労者や優良運転者5人を多良木警察署長が表彰。同署の交通係長は、子どもを交通事故で亡くした母親の手記を読み上げ、交通事故の悲惨さを訴えました。

人吉球磨のヒーロー「ジュグリッター」の交通安全ショーのあと、慈光こども園の園児が交通安全宣言を行い、「交通ルールを守って事故のないまちにすることを宣言します」と会場に声を届けました。



「事故のないまちにしよう」と交通安全宣言をした慈光こども園の園児たち

戸籍の窓

平成30年9月1日～9月30日

ご結婚おめでとう

- 椎葉 祥希 (植木)
- 新門 祐美 (人吉市)
- 高野 俊太 (益城町)
- 白石 有 (上里3)
- 堤田 匡詞 (野中田1)
- 高濱 里実 (錦町)
- 新川 峻矢 (相良村)
- 永濱 美貴 (浜川)

おたんじょうおめでとう

- 藤岡 晟結奏 洋史 (中里1)

ご冥福をお祈りします

- 坂本 カヲル (上染田)
- 那須 竹生 (瀬戸口)
- 越智 健六 (中里1)

香典返し

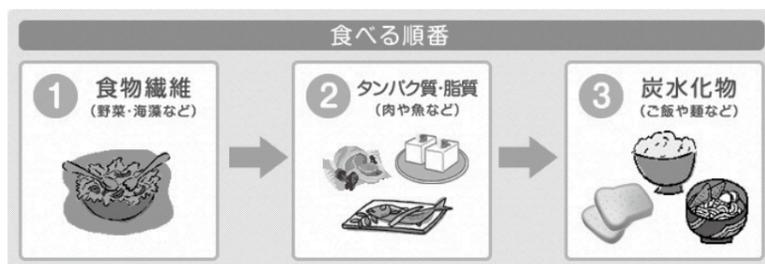
- 那須 マチ子 (瀬戸口)
- 野田 止 (馬場)
- 尾前 守 (野中田2)

Dietary habits 管理栄養士だより

野菜から食べて、糖尿病を予防

11月14日は世界糖尿病デー

食べる順番を知っていますか？ 野菜を先に食べることで、食物繊維が最初に体内に入り、後から食べるご飯などの糖質の分解・吸収が遅れ、食後の急激な血糖の上昇を抑えます。糖尿病予防のためにも、野菜を食べましょう。



管理栄養士 田中 朋子

Health 保健師だより

家族みんなの協力が必要です お腹の子どもを風しんから守りましょう



風しんの報告数が増えています。妊婦が風しんにかかることで、生まれながらにして目や耳、心臓に障がいを持った子どもがいます。この障がいは先天性風しん症候群(CRS)と呼ばれています。

本町でできること

- 妊婦・・・風しん抗体が低いとき
 - 不要不急の外出を避け、人混みに近づかないようにしましょう
 - 風しんを疑う症状(発熱・発疹)が表れたら主治医に相談しましょう
- 妊娠を希望している人、妊婦と同じ生活空間にいる家族
- 海外など、風しんが流行している地域に渡航する機会がある人
- 風しんにかかったことがなく風しんワクチン接種を2回受けたことがない人や受けたかどうか不明な人・・・
 - 町と契約した医療機関で風しんワクチンまたは麻疹風しん混合ワクチンを無料で受けることができます

保健師まで気軽にお尋ねください(☎0966-43-4112)

保健師 中西 博子

Ecolog ごみ情報

不要な携帯電話・スマートフォンは保健福祉課へ

2020年に東京都で開催されるオリンピック・パラリンピック。小型家電に含まれる貴金属を使って入賞メダルを作る「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」が行われています。保健センター窓口に回収ボックスを設置していますので、不要な携帯電話・スマートフォンがあれば、持参してください。

本町はリネットジャパン(株)と連携し、宅配便でパソコンなどの小型家電の自宅回収を行っています。パソコンが含まれていれば、送料は無料、含まれていなければ、1箱1500円(税抜)での回収できます。詳細・申し込みは、リネットジャパンのホームページをご覧ください

(<http://www.renet.jp/>)

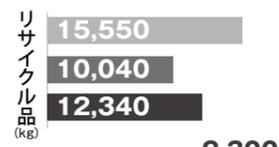
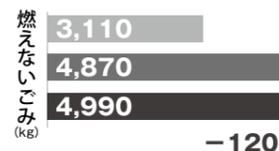
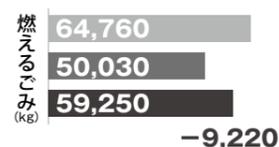
- ※11月の不燃物収集は7日、21日です(第1・3水曜日)
- ※11月23日(金・祝)勤労感謝の日のごみ収集は休みです

乾電池を外して燃えないごみへ

電池式のおもちゃや壁掛け時計などは乾電池を外してから燃えないごみに出してください。発火の原因になり、とても危険です。



リサイクルステーションに持ち込まれたリサイクルできないごみ



■ 8月分
■ 9月分
■ 昨年の9月分

Books 読書のススメ

中央公民館図書室 ※貸出期間2週間/一人5冊まで
○平日 午前8時30分～午後5時 ○土日・祭日 午前9時30分～午後5時
☎ 図教育委員会 ☎0966-43-2050



人気アナ初の書き下ろし
ウドウロク
有働由美子(著) 新潮社

49歳独身。職業・アナウンサー。これまで、たくさんの人と出会い、いろんなことを経験し、多くの言葉をもらってきた。自他ともに認めるクワイ部分も、少しだけ残っているシロク部分も詰まる。「人生で一番悩んだ決断」についても経緯と本心を初めて明かす。

信念貫く社員の勇気溢れる物語
懲戒解雇
高杉良(著) 文藝春秋

「森を懲戒解雇にするぞ」。大手合成繊維企業で中堅の有望株と目される森雄造は、川井常務の経営方針を批判して怒りを買う。次期社長を巡る派閥抗争の巻き添えも食い、不当に貶められて臍首の憂き目に。森は、会社を相手にたったひとりの闘いを挑む。



がらくたにはすばらしい可能性がある
がらくた学級の奇跡
バトリシア ポラッコ(著)

新しい学校でむかえる新学期。トリシャはわくわくしていた。でも、そんなトリシャを待っていたのは「がらくた学級」と呼ばれる特別なクラス行き…。落ちこむトリシャを、温かく迎えたのは、ちょっと変わったクラスメイトたち、そして型破りなピーターソン先生だった。

だじゃれで覚える世界名
だじゃれ世界一周
長谷川義史(著) 理論社

国名を使った駄洒落で世界めぐり。各ページに一カ国をだじゃれで紹介。声に出して読むと笑える！だじゃれで笑いながら国名を覚えらる。気分はまるで世界旅行。どんな名産や見どころがあるのか？どこにあるのか？という疑問も付属の世界地図で解決。



1 子の立派な成長を願う辻・瀬戸口の風習。輪の中に入るのは15歳になる子どもたち 2 掛け声に合わせて縄を編んでいく、男性たちも笑顔があふれる 3 すべて編み終わって円形に。地区の人が作った大きなぞうりを下げると完成



リポーター 安井 佳奈

特集2 協力隊レポート「湯前の十五夜」

人集う、月明かりの夜

「おーつきさんが、おーつきでたよ」。湯前音頭の覚え方にも「月」が登場します。蒸し暑さがなくなり、涼しい風が吹く夜。毎年この季節になると、普段は真っ暗な夜道でも月明かりだけでのんびり歩くことができます。今回は、十五夜にかかわる地域の行事についてみていきましょう。

公園から響く男性の声

9月23日。ある町民から町内で十五夜の伝統行事があると教えてもらい、カメラを持って出かけることに。今回は辻・瀬戸口地区と山ノ口地区へ向かいました。この日は十五夜の前日。どちらの地区も、毎年この時期に十五夜の行事として縄編みをするのだそうです。

涼しくなり始めた午後5時ごろの瀬戸口地区の辻公園。子どもたちが元気に走り回るその奥で、何やら声が聞こえます。「こうのつせ、こうのつせ」。男性3人がかけ声にあわせ、力を込めて縄を編んでいました。何十本のわらを一束にして、継ぎ足しては編みを繰り返して、どんどん長い縄になっていきました。

いつか、子どもを見守る側に

こちらでも、この行事が終わると公民分館に入り、観月祭が始まりました。鉢盛りだけでなく、地区の人が心を込めて作ったトウモロコシやミカンなど、手作りのものが並んでいました。

十五夜で編んだ縄は、儀式が終わると最後は木に掛けられます。雨や風にさらされ、わらが腐るなどして切れて落ちるまでがこの十五夜の伝統の流れです。縄は十五夜のあとにやってきた台風24号の強い雨風にも耐えて、しっかりと下がっていました。

今回は、2つの地域を取材しましたが、町内ではほかにも縄編みをしている地区や観月祭を開く地区もあるそうです。ずっと守られ、受け継がれてきた地区の伝統行事。今の子どもたちが大人になり、将来子どもたちを見守る側に立ったときに、ふと懐かしく思う、そんな日が来ることを願っています。

特集 人集う、月明かりの夜(完)

15歳の子の健康を願う
何十年も伝統の縄編みを続けてきた先輩と途中で交代し、後輩たちは編み方を受け継ぎます。どんどん編まれていく縄。一体どのぐらいの長さになるのでしょうか。別府幸治さん(69)瀬戸口)に聞いてみると「子どもの人数によって変わる。まあ、だいたいはのどが渴いてきたらそいでしま(終わり)。観月祭でうまか焼酎の飲むこと(飲めるように)ね」とのこと。



4 山ノ口では縄を円形に巻いて御神酒をあげたあとに、子ども相撲が行われている 5 十五夜での儀式が終わり、木にかけられた縄。切れて下に落ちるまでが役目

辻・瀬戸口地区では、その輪の中に15歳になる子が入り「健康に育ち立派な大人になるように」という願いを込めてお参りをしていました。十五夜に併せて15歳の子が入るのだからか。

大人と子どもの笑い声

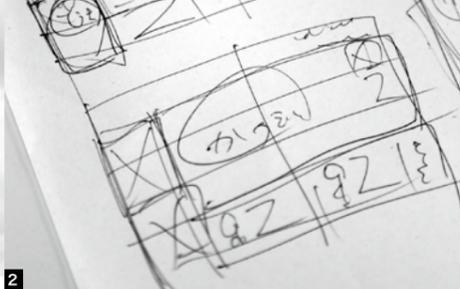
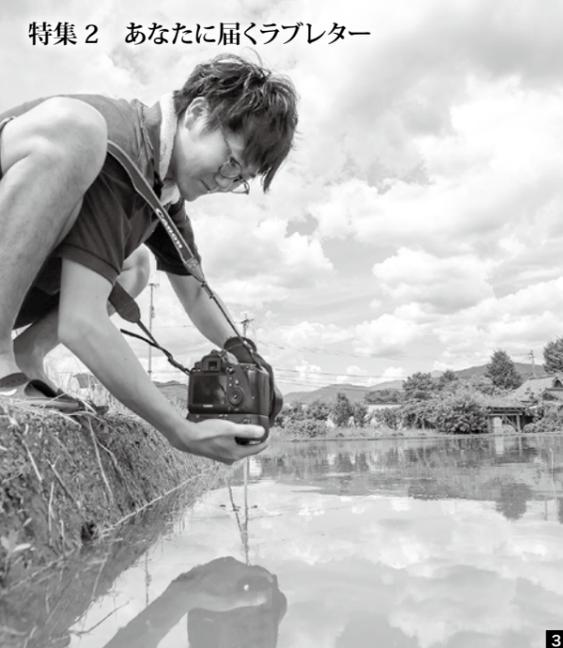
次に、山ノ口地区へ行きました。こちらでは、山ノ口公民分館にある大きな木に引っかけて、縄を編んでいきます。ひねりながら力強く編み、完成できた縄は辻・瀬戸口地区と同じよう



編んだ縄を伸ばす作業。十五夜は地区の大人と子どもと一緒に汗を流す機会になっている



大人も子どもも真剣勝負。温かな笑い声が周りに響く



1取材用ノートと愛用のカメラ。ノートはすぐに取り出せるよう、ポケットに入れるので真ん中に線が入る2特集記事は企画から、レイアウト、取材、撮影、文章まで、一番時間のかかる「広報の顔」。一枚の紙に、誌面の配置を何度も書き直して、イメージをふくらませる



3「人が見ていない視線で撮ると、新鮮な写真になる」と水面ギリギリまでカメラを近づけ、アングルを変えて表紙の写真を撮影4「インタビューを受けてくれた人の真意に近づきたい」と事前に下調べをし、さらに質問を投げかける姫野さん

あなたに届くラブレター

特集2 協力隊リポート最終回「広報湯前」

リポーター 安井佳奈



湯前の人やものへの愛情を込めたラブレターのような広報湯前。ことし7月の表紙で元気な姿を見せてくれたのは佐々木あいりさん(湯前小5年=上里3)※左と石井愛子さん(同=中里2)。今回も表紙に負けないほどの笑顔

毎月、月初めに届く「広報湯前」。私は2年8カ月の間、広報誌の1ページを使い、連載記事を書いてきました。最後はこの人。湯前町役場で広報湯前を作っている姫野宏太さん(28 中里2)。今回は、いつも取材している姫野さんを私が取材しました。

読みたくなる広報誌の継承

姫野さんはことしで広報担当6年目。納得するまで何度も写真を撮り、文章を添えて毎月広報誌を町民へ届けています。いつも目を引くような写真が載っていますが、実は広報担当になるまで写真には興味がなかったのだとか。前任者が作っていた「読みたくなる広報誌」に近づくため、せめて写真だけでも頑張ろうとカメラを買い、写真が好きになったといいます。

情報収集、取材交渉、写真撮影、文書作成など、広報はお仕事がたくさん。町のイベント、小・中学校の行事など、さまざまな場所へ向かうので「あ、カメラマンだ!」と子どもからも声をかけられるほど顔が知られています。

「読む側は短くまとめ、中学生が読んでも分かるほど簡単になっています。雑誌を見るときに、まず目に入ってくるのが写真です。写真が良くなければ誌面を最後までめくってもらえないし、文章も読んでもらえない」と話すように、どの写真も今にも動き出しそうなものばかり。取材に協力してくれた人が「広報に載ってよかった」と思ってもらえるよう、人の表情にもこだわります。

「取材に協力してくれた人や誌面を見てくれた人に『本物のファン』になってもらいたいです。多くの住民が町に関心を持って、町の良さをみずから発信できる誌面にしたいと思っています。読む側の気持ちを考えて作ることが、読みやすさの秘密でした。」

町の人と一緒に作る

広報湯前は住民がたくさん登場することも特徴の一つ。広報誌に自分の知っている人が載っていると、写真だけでなく、その人が何をしたのか読んでみたくくなります。「町を輝かせているのは町の人。皆さんが取材できるような活躍をしてくれるからこそ、広



熊本県広報コンクールの広報紙・町村部では5年連続特選、今にも動きだしそうな写真も魅力

住民とまちをつなぐ

毎月読みたくなる誌面。イベント情報だけでなく、住民の活躍や挑戦なども掲載されています。活躍を追って、町内外どこへでも。裏ではたくさんの方の取材や写真撮影が行われています。

取材は、カメラに三脚、レフ版、ノート、ペンなど持ち物がいっぱい。ノートは5年5カ月で14冊に積み上がりました。話している人の目を見て、耳でしっかり聞き、何気ない雑談までメモ。完成した記事を見ると、相手のしぐさまで文字になっていて、取材の状況がより伝わってきます。

本物の湯前ファンを増やしたい

広報誌を作るときは、町の情報を町民の皆さんに「伝える」のではなく「伝える」ことができません」と姫野さん。住民と一緒に作る気持ちを常に持ち続けています。

広報湯前はラブレター

姫野さんの「小さな発見やおもしろかったことなど、協力隊の目線で町の魅力を伝えてみませんか?」という一言で始まった私の連載。何度も取材に行き、写真の撮り方や取材の仕方を教えてもらいました。「毎月読んでるよ」「あの写真はよかったね」と言ってくれた広報湯前ファンもたくさんいます。写真・題名・文章。読者をぐっと引き込む記事を作ることには簡単ではありません。広報湯前は毎月、住民一人一人に届くラブレターのようなもの。姫野さんは今日も町や住民への愛情を誌面に込めています。

特集 あなたに届くラブレター(完)

湯前がもっと大好きになった取材。町の中でたくさん笑顔に出会い、私たちもたくさん笑顔になることができました



graduation

3年間ありがとうございました

森田さんと安井さんが地域おこし協力隊を卒業

平成27年11月から本町の地域おこし協力隊として活動していた森田明大さん(31=中里2)と安井佳奈さん(26=中猪)が10月31日で3年間の任期を終え、新たな一步を踏み出しました。

多くのつながりに笑い合えた3年間、これからも湯前で笑いたい

湯前の人の温かさにほれて地域おこし協力隊になることを決めた3年前。今日まで、保健福祉・タブレット講座・広報・社会体育などの活動をしてきました。湯前に来た当初「まずは顔だけでも知ってもらえれば」と思っていたのですが、実際に活動してみると広報や新聞を見て「よそから来た人よね〜？」と私が自己紹介する前に、たくさんの人に声をかけてもらいました。

これまでやってきた体育・福祉・ICT(情報通信技術)などは、それぞれ全く違う分野だと思っていましたが、どの活動も町の人との関わりが深くなければいけないことだと気づきました。活動していると、いろんなところで声をかけてくださることがたくさん。そのたびに、湯前に来て良かったなと感じました。

「安井ちゃん」「かなちゃん」「柔道の人」など、湯前に来てからいろんな名前と呼ばれるようになりました。3年間の活動でたくさんの人と関わり、助けられ、笑わせてもらいました。これからも湯前で楽しく笑って過ごしたいと思います。3年間ありがとうございました。



かな
安井 佳奈さん(26=中猪)

Profile

兵庫県出身。龍谷大学柔道部(京都府)に所属し、合宿で来町。人の温かさに魅力を感じ湯前への移住を決意。情報発信や体育、福祉などを担当した。柔道クラブで指導。青年団員としても活動。持ち前の笑顔でたくさんの住民を笑顔にする。



町ぐるみの温かさに感謝、今後も魅力を発信し続けたい

「湯前町地域おこし協力隊」の任期が終わり、今は3年間無事動め上げることができてホッとしています。私は3年前、「のんびりと田舎で子育てをしたい」「近く(錦町)に祖父がいる」という理由で、地域おこし協力隊として湯前に移住することを決めました。湯前を初めて訪れたときは、広がる田園風景に感動するとともに新しい生活への不安を感じました。しかし、町の皆さんがいつも気にかけてくれて、町全体で子育てをしているような感覚に「ここへ来て本当に良かった」「ここで暮らしていきたい」と思いました。

私は昨年5月に湯前駅前に設立された「奥球磨スマートタウン研究所」に勤めることになり、今後も町に残ることができるようになりました。これまで活動してきたことを町と協力しながら継続し、もっといろんなことに挑戦していきたいと思っています。湯前の魅力を外へ伝えるには、3年ではとても足りませんでした。今後も町の魅力を発掘して、外に発信していこうと思います。3年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

あきひろ
森田 明大さん(31=中里2)

Profile

鹿児島市出身。3年前に妻、真音春さんと息子の春翔くんとともに湯前へ。地域おこし協力隊として主に本町のICT利活用を担当。以前は四国や地元鹿児島で会社員として勤務。趣味は息子と遊ぶこと。



Community ▶

青年団だより

2018 No.5



広報部長
森川 未月

台風などでイベントが中止になり、青年団を見かけることが少なかったと思いますが、団員たちは元気です。寒くなってきましたが、皆さん手洗いうがいを忘れず、元気に過ごしましょう。

9月8日(土)、9日(日) 第54回球青協文化祭 あさぎり町須恵文化ホール

私たちは舞踊、合唱、ダンス、意見発表、のど自慢に出場しました。合唱は人数が少ない中、1位をとることができました。舞踊では2位、展示の部でも多くの作品が入賞しました。来年はどの部門でも上位入賞を目指して頑張ります。



9月17日(月・祝) 社協敬老会 高齢者福祉生活センター湯愛

敬老会では、男女ともに文化祭で披露した舞踊を間近で見てもらいました。見てくれた皆さんに喜んでもらえました。



1人数が少ない中、1位をとることができた合唱 2毎年上位に食い込む舞踊は2位 3みんなで協力し、楽しく、笑顔で過ごした文化祭

これから

11月3日(土) 町民文化祭 舞踊、バザー 農村環境改善センター

11月11日(日) 漫画フェスタバザー出店 まんが美術館一带

Smile

ゆのまえがお湯前小学校5年生の皆さん



□ひとこと

「部活動楽しんでます!」

「笑顔がすてき」「何かPRしたい」などたくさんの人を待っています
企画観光課 地域おこし協力隊まで TEL 0966-43-4111

Front Page

今月の表紙

湯前保育園運動会、年長児の親子競技の一枚。親子二人で「デカパン」を履き、コーンまでの距離を往復するリレー。速く走ろうとする園児と、窮屈で思ったように動けない保護者。それを見守る保育士も、みんなが笑顔でした。



編集後記

▼とある物産館に立ち寄りまして、「こんにちは」声をかけてくださったのは下村婦人会の人。そこで私はからし漬けを購入。すると「これも持っていきなさい」とわざわざ自分のお金で商品を買って、私にお土産を持たせてくれました。家に帰って食べたときに、その人の笑顔が浮かんできました。手間暇をかけた手作り真心込めた接客。販売した人や作り手の見える温かい商品でした。からし漬けは焼酎のつまみとしていただきました。うまかった。

▼広報で協力隊のコーナーを担当してくれた安井さんが卒業満点の笑顔と大きな笑い声。礼儀正しさも相まって、町内に彼女のファンがたくさんいます。一緒に取材に行くと、彼女の笑い声につられて、だれもが自然な笑顔になっていました。誌面でも、私たちが普段気づかない魅力や、住民に寄り添ったできごとを独自の目線で伝えてくれました。

写真も取材もメモキキ上達した安井さん。新たなステージでも自分らしさに磨きをかけて活躍してくれることでしょう。私も負けないように頑張ります。

(完)



3年生最後のコンクールで初の金賞、有終の美飾る

人づくりは音づくりへ

湯前中学校吹奏楽部

日 本音楽教育文化振興会が主催する第24回日本管楽合奏コンテスト予選の審査結果が9月29日に発表され、湯前中学校吹奏楽部(宮原舞華部長)が中学校S部門(15人以下)で優秀賞を獲得。録音審査に数百校が応募する大会で快挙を達成した。

続く10月6日。熊本市の熊本県立劇場で開かれた、第51回RKK熊本県中学校器楽合奏コンクールは現3年生にとって最後のコンクール。中学校B(15人以下)の部で同校7年ぶり、3年間で初めての金賞を受賞し、見事に有終の美を飾った。

演奏したのは「鼓響Ⅱ」和太鼓と吹奏楽のための試み」で顧問の伊豆野浩教諭が製作したもの。故郷とかけ、湯前の自然を表現し、吹奏楽に和太鼓や琴など日本の楽器を合わせた曲。10月6日、部長の宮原さんは「これが最後。今までで一番いい演奏をしたかった」とコンクールに挑んだ。演奏が終わった瞬間、部員たちは充実感と感動で涙を流した。それほど納得できる演奏だった。「それぞれの楽器の役割をしっかりと果たしていた。3年生のソロパートも良く、全体の調和がとれていた」と伊豆野教諭。結果はついてきた。発表の瞬間、全員が喜びと驚きでいっぱいだった。



いつもみんなで助け合い、励まし合ってきた部員たち。今までなかなか結果が出なかったが、努力はみんなを裏切らなかった

和太鼓と吹奏楽を合わせた曲は珍しい。和太鼓の練習だけでなく、和太鼓に合う吹奏楽の音色を出すために指導を受けて、表現力を高めてきた。個人練習でも基礎を欠かさなかった。リズムや吹き方は、同級生同士で確認し合い、先輩は後輩にアドバイス。思いやり、励まし合って力をつけた。学校の来客には立ち止まって、大きな声であいさつ。正しい礼儀が心を成長させ、最後に最高のハーモニーを生んだ。

「人間的な成長が技術を高めた。限られた時間の中でもさらに成長できる人間になってほしい」と伊豆野教諭。3年生の演奏の機会は残すところ人吉球磨内での演奏のみとなった。宮原さんは「金賞や優秀賞をとれた経験を生かして、いい演奏を地域の皆さんに届けたい」と話した。